

厚生労働省 三重労働局発表

令和元年 5 月 30 日(木)

担 当	厚生労働省三重労働局職業安定部
	職業安定課長 小西 克明
	職業安定課長補佐 東 久文
	地方労働市場情報官 吉原 健一
	電話 059-226-2305

報道関係者 各位

「雇用情報モニター報告集計結果(平成 31 年度第 1・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年 4 回（四半期毎）提出いただいております。

このたび、平成 31 年度第 1・四半期（平成 31 年 4 月～令和元年 6 月）実績見込み及び次期（令和元年 7 月～令和元年 9 月）見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

調査結果 主な項目の概要

○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 21.7%で減少、「減少」が 33.3%で増加。D I（「増加」－「減少」）は▲11.6。前期と比べ 18.3 ポイント下降。次期見通しは 16.6 で上昇予想。

○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 14.3%で減少、「減少」が 31.7%で減少。D I（「増加」－「減少」）は▲17.4。前期と比べ 3.1 ポイント下降。次期見通しは 4.7 で上昇予想。

○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 23.3%で減少、「減少」が 21.7%で増加。D I（「増加」－「減少」）は 1.6。前期と比べ 11.9 ポイント下降。次期見通しは 13.5 で上昇予想。

○ 設備投資の見込み

「ある」が 46.8%で 6.8 ポイント増加。「ない」は 37.1%で 5.4 ポイント増加。D I（「ある」－「ない」）は 9.7 で 1.4 ポイント上昇。

○ 従業員の過不足判断

「過剰」が横ばい、「やや過剰」が増加、「不足」が減少、「やや不足」が減少。D I（「過剰」－「不足」）は▲29.9 となり、14.6 ポイント上昇（不足判断が減少）。次期見通しは▲35.3 で「不足」判断は増加の予想。

○ 雇用調整の状況

実施事業所は 5 事業所（8.2%）で、前期の 5 事業所（8.5%）から横這い。

○資料

別添 「平成 31 年度 雇用情報モニター報告集計」

○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
 - ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
 - ・調査時期 平成 31 年度第 1・四半期実績見込み及び次期（平成 31 年度 7 月～9 月）見通しについて
 - ・モニター内訳 建設業 2、製造業 48、運輸業 2、小売業 7、サービス業等 5、事業主団体等 8
 - ・回答状況 民間企業 64 社、事業主団体等 7 団体
- （注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

平成31年度 雇用情報モニター報告集計

平成31年度 第1・四半期
三重労働局職業安定部職業安定課

30年度第4・四半期(31年1月～3月 以下前期)においては、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)はプラスとなりましたが、31年度第1・四半期(31年4月～令和元年6月 以下今期)においては、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)はマイナスとなりました。

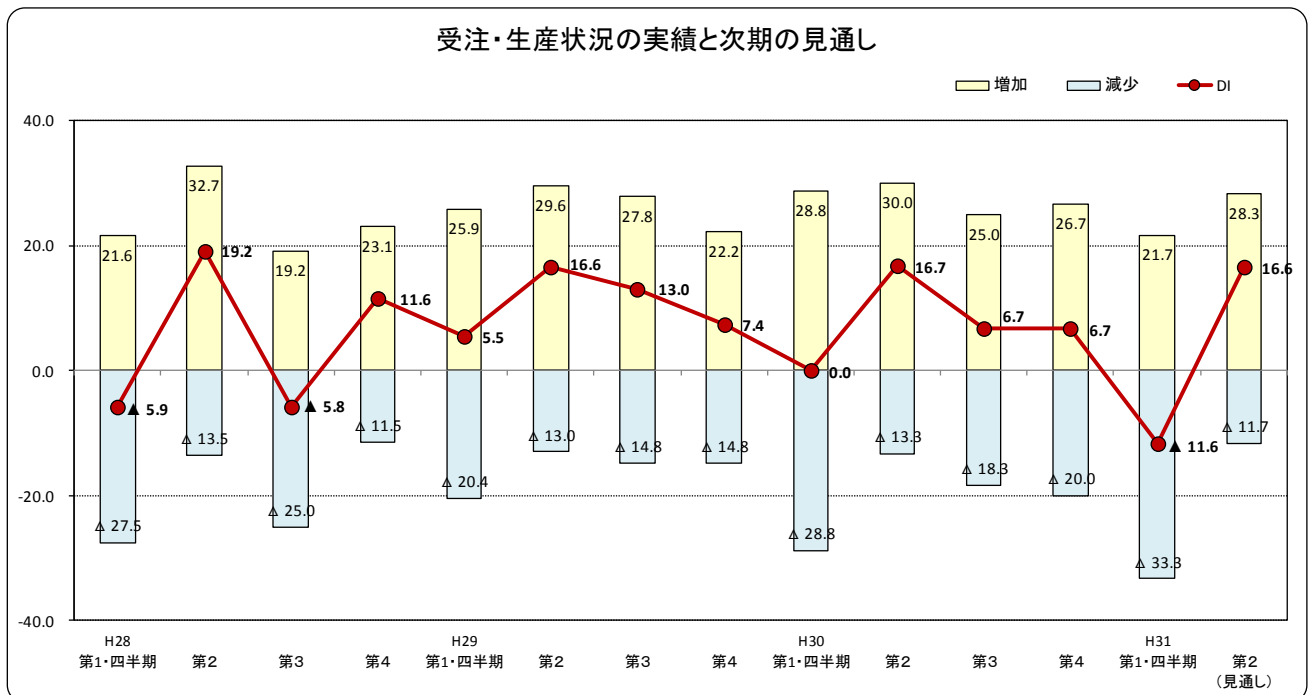
次期の予想においては、多くの指標で上昇の見通しとなっています。

1. 受注・生産動向について

【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が21.7%、「減少」が33.3で、D I(「増加」-「減少」)は▲11.6で前期と比べ18.3ポイント下降し、10期ぶりにマイナスとなりました。

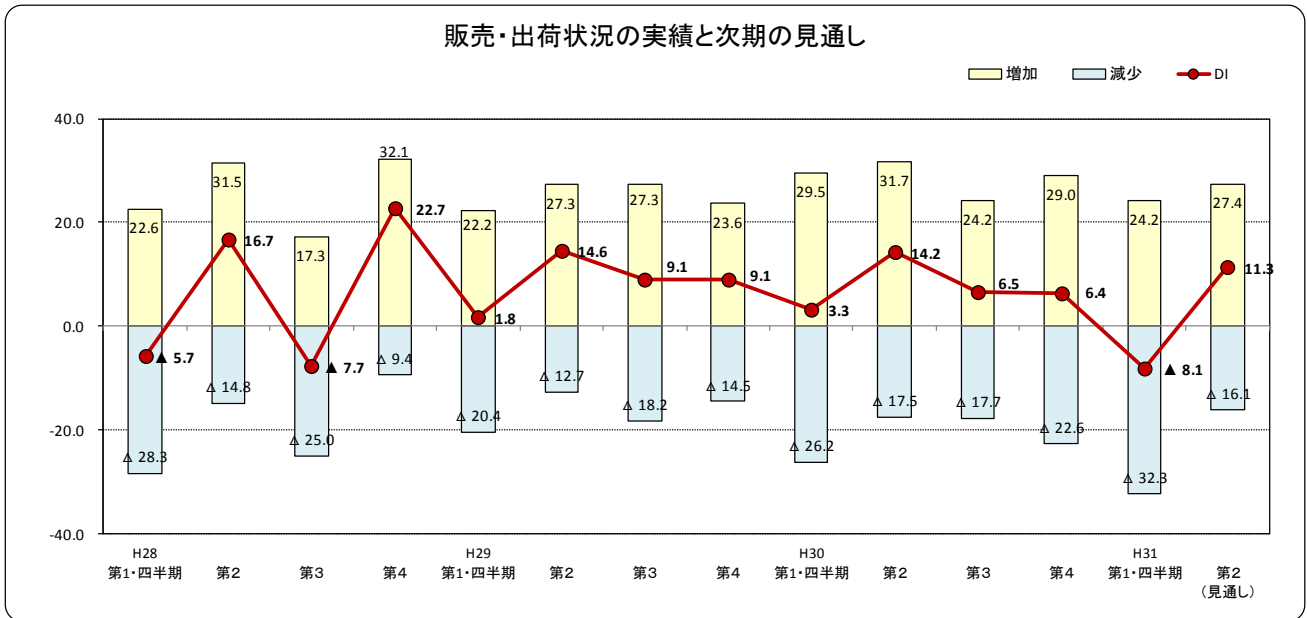
次期の見通しについては、D Iは16.6で、上昇する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が24.2%、「減少」が32.3%で、D I（「増加」－「減少」）は▲8.1となり、前期と比べ14.5ポイント下降し、10期ぶりにマイナスとなりました。

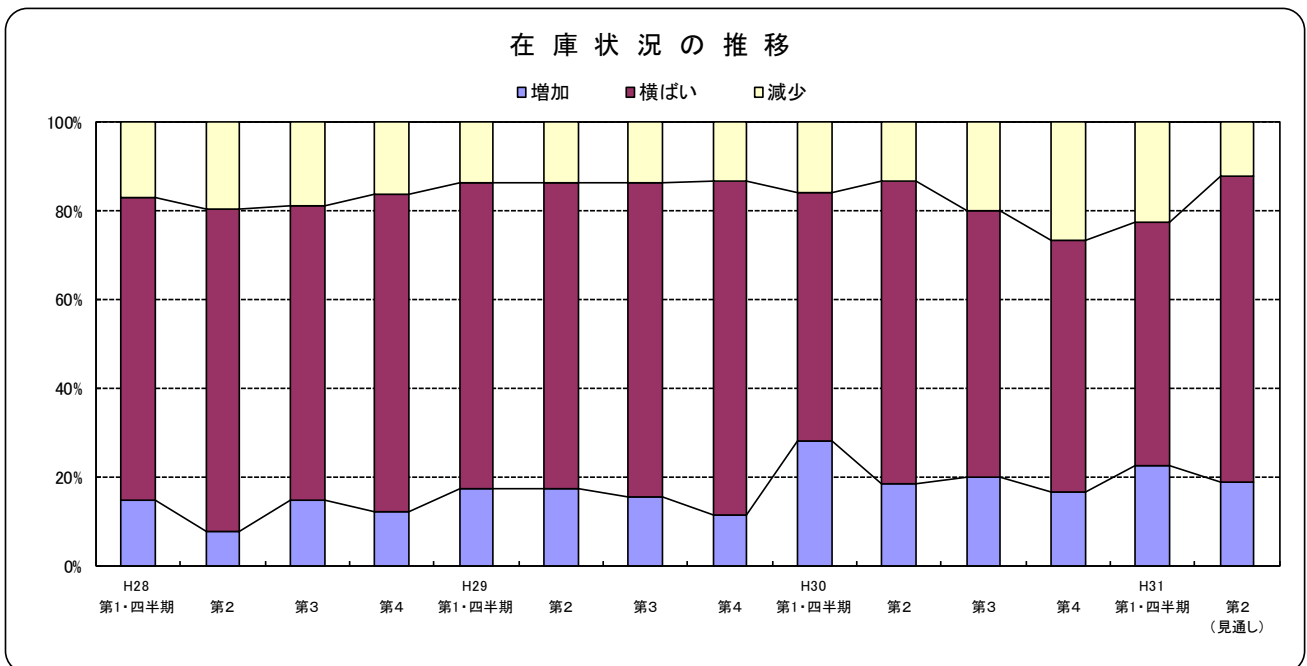
次期の見通しについては、D Iは11.3で、上昇する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が増加、「減少」が減少、37期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「横ばい」が増加し、「増加」が減少する予想となっています。

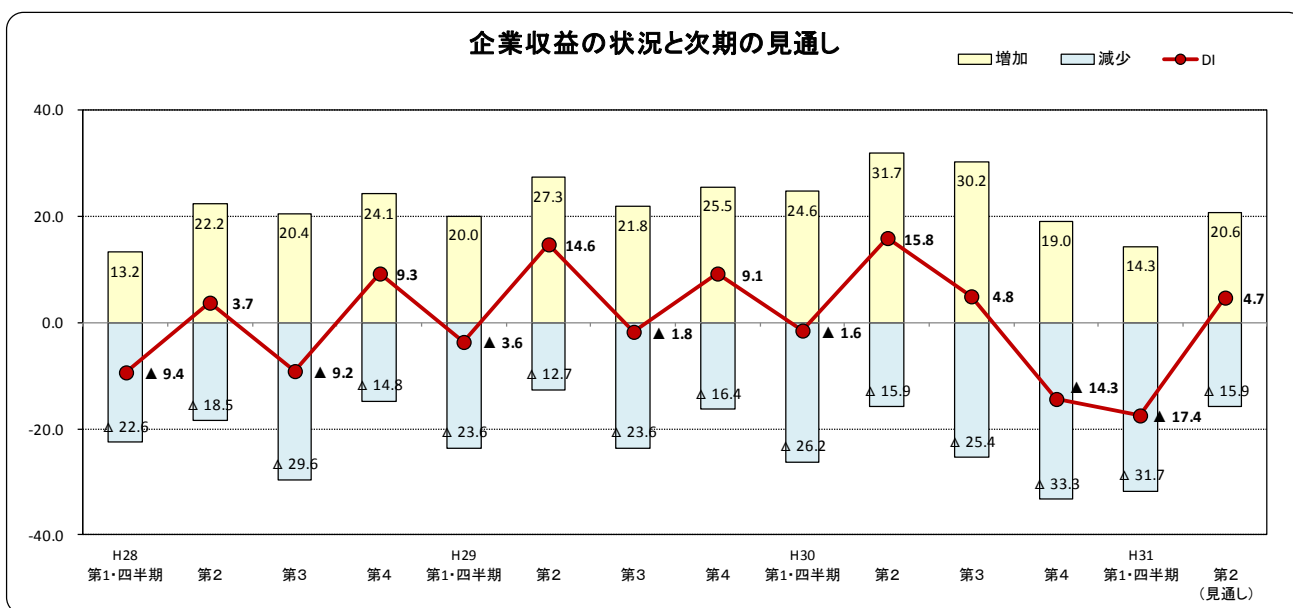


2. 企業活動の状況について

【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が14.3%、「減少」が31.7%で、D I（「増加」－「減少」）は▲17.4となり、前期と比べ3.1ポイント下降し、2期連続でマイナスとなりました。

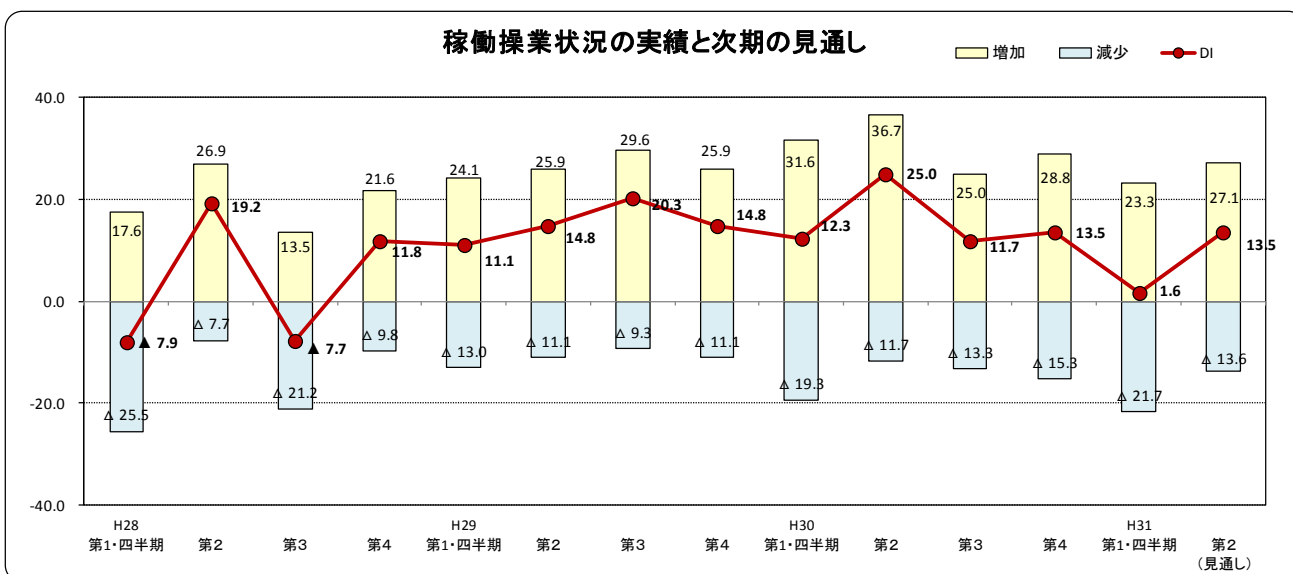
次期の見通しについては、D Iは4.7で、上昇する予想となっています。



【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

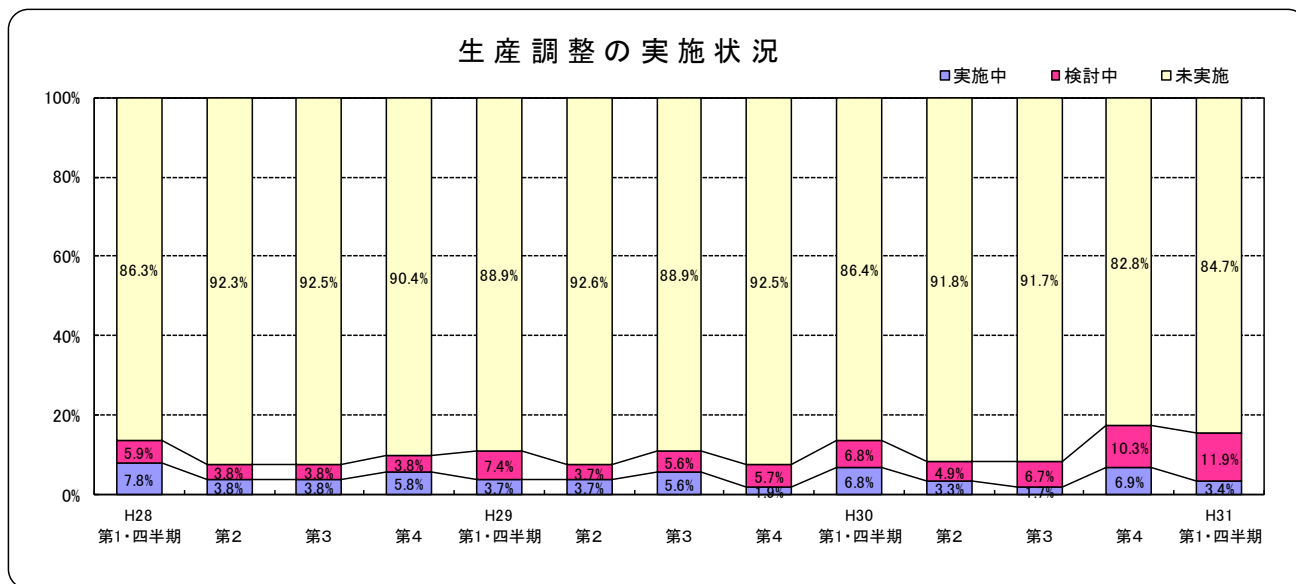
今期の稼働操業状況では、「増加」が23.3%、「減少」が21.7%で、D I（「増加」－「減少」）は1.6となり、前期と比べ11.9ポイント下降したものの、10期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは13.5で、上昇する予想となっています。



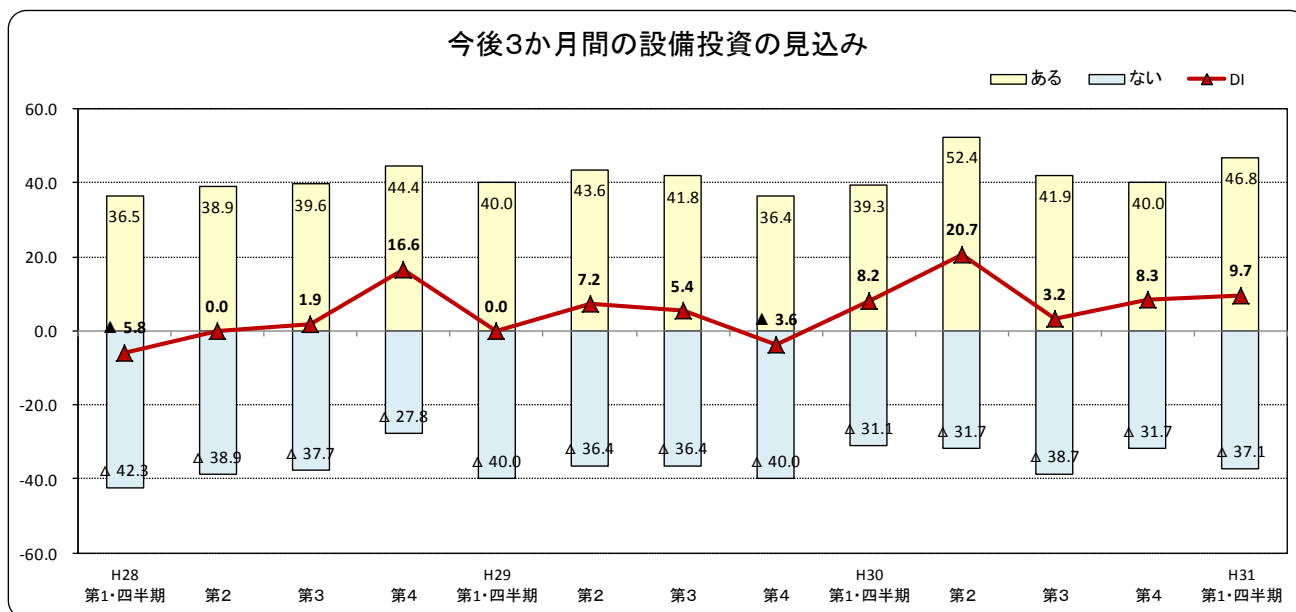
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は84.7%で前期と比べ1.9ポイント増加、「検討中」は11.9%で1.6ポイント増加、「実施中」は3.4%で3.5ポイント減少となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は46.8%で前期と比べ6.8ポイント増加、「ない」とする事業所の割合は37.1%で5.4ポイント増加、D I（「ある」-「ない」）は9.7となり、前期と比べ1.4ポイント上昇しました。

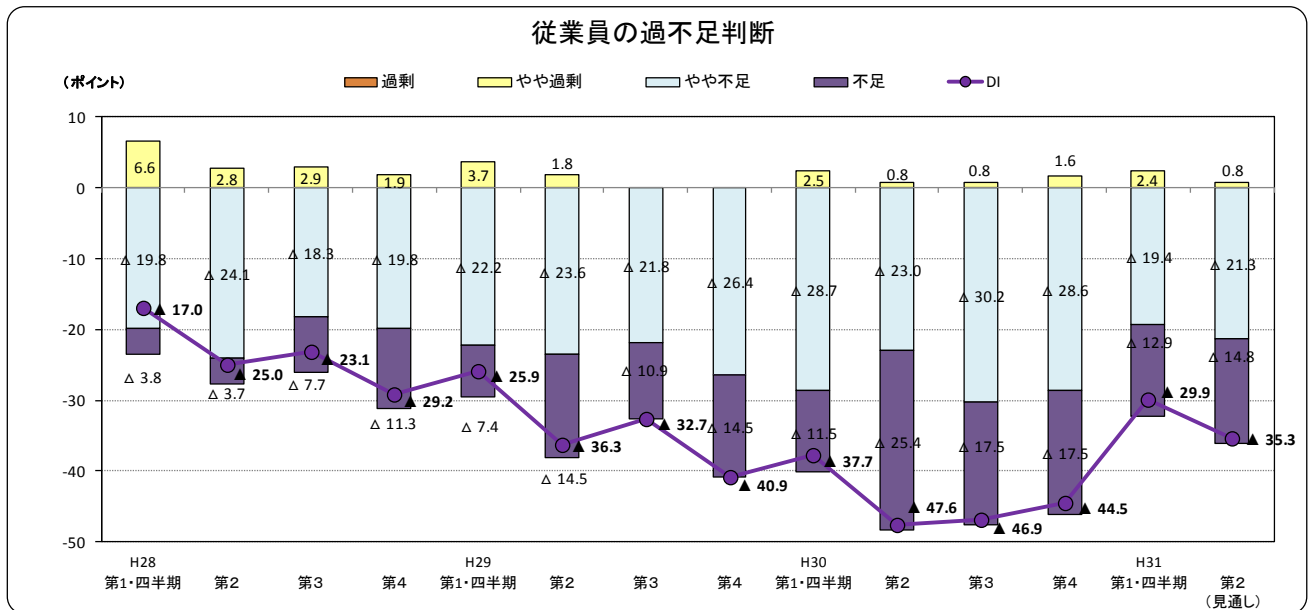


3. 雇用動向について

【従業員の過不足判断】

「過剰」は0.0ポイントで横ばい、「やや過剰」とする事業所は2.4ポイントで0.8ポイント増加、「不足」は12.9ポイントで4.6ポイント減少、「やや不足」とする事業所は19.4ポイントで9.2ポイント減少したため、D I（「過剰」－「不足」）は▲29.9となり、前期より14.6ポイント上昇（不足判断が減少）したものの、25期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

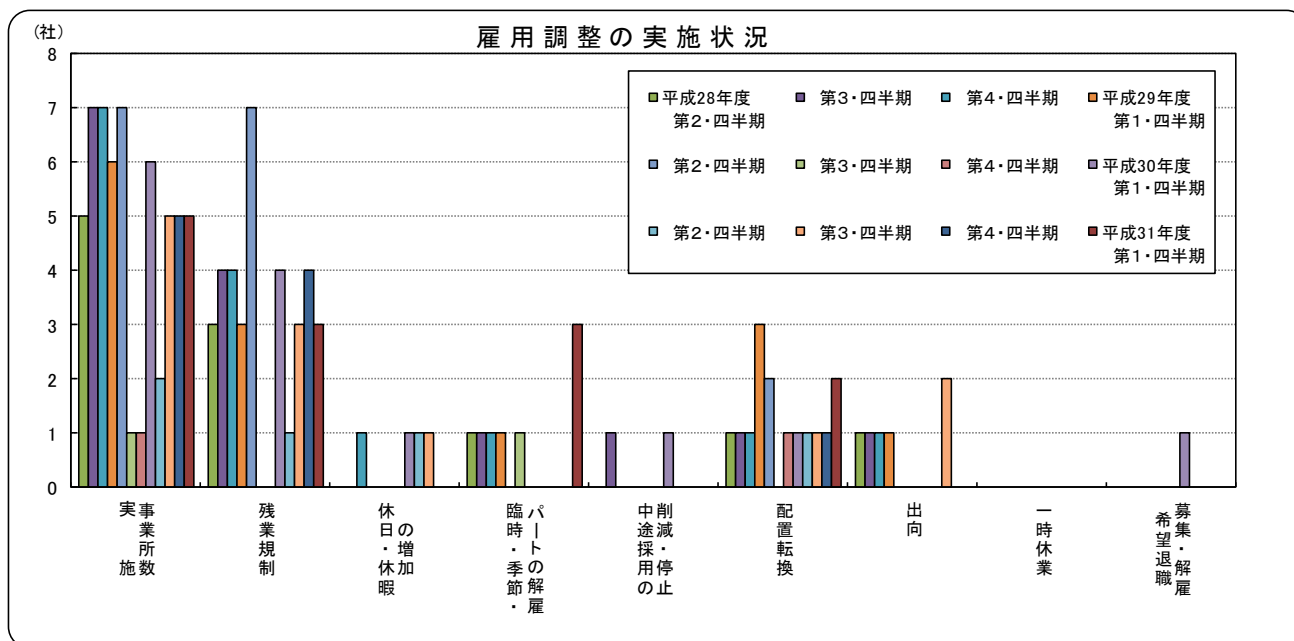
次期の見通しについては、D Iは▲35.3で、「不足」判断は増加の予想となっています。



【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は5事業所(8.2%)で、前期の5事業所(8.5%)と同数となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
平成28年度 第2・四半期	52	44	3	5	3	0	1	0	1	1	0	0
第3・四半期	51	43	1	7	4	0	1	1	1	1	0	0
第4・四半期	53	45	1	7	4	1	1	0	1	1	0	0
平成29年度 第1・四半期	51	42	3	6	3	0	1	0	3	1	0	0
第2・四半期	53	45	1	7	7	0	0	0	2	0	0	0
第3・四半期	55	52	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0
第4・四半期	53	52	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
平成30年度 第1・四半期	60	54	0	6	4	1	0	1	1	0	0	1
第2・四半期	62	58	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0
第3・四半期	60	53	2	5	3	1	0	0	1	2	0	0
第4・四半期	59	53	1	5	4	0	0	0	1	0	0	0
平成31年度 第1・四半期	61	56	0	5	3	0	3	0	2	0	0	0



<主なコメント>

- 原材料、燃料、資材、運送費など、全ての面で値上がり傾向にあり収益状況は良いとは言えない。（事業主団体）
- 職種を問わず、人員不足が続いており、紹介会社を経由しての採用が増えている。（医療業、福祉業）
- 年度末にかけこみ受注があり、多少受注、売上とも増加傾向にあったが、四半期でみると減少する見込み（製造業）
- 昨年同期と比べると大幅増（改元の影響）の見込み。（製造業）
- 生産の状況に応じて配置転換の実施を計画中である。（製造業）
- 来期は巷のオリンピック特需終了や消費税増税に伴うセンチメントの悪化の影響を受け、受注・生産・販売は今期に比べ横ばいから減少で推移すると思われる。（製造業）
- 余剰職種が出てくるため配置転換を計画している。ただし、一部職種では不足状況が続いている。（製造業）
- 期間契約社員の採用難が継続している。（製造業）
- 賃上げ、最低賃金上昇、派遣社員の単価上昇などにより人件費は高騰が続いている。（製造業）
- 採用活動を積極的に継続している。（小売業）
- 人員不足は続いているが、応募者は増加しており、順次採用をしている。（製造業）
- 夏物商品の先行生産が始まり稼働は増えるが、フィルム包材、物流費、燃料費の値上げにより収益は厳しい。（製造業）
- 新規生産に向けた生産準備の為、設備投資も実施。収益も増加する見込み。（製造業）
- 今期は需要期となるため前々期に対して増加し、前期に対して横ばいの見通し。（製造業）
- 従業員不足分を残業、会社応援で対応。（製造業）
- 技術職（免許所持者）がやや不足している。（製造業）